

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号				
1-1	寄懷秋晚香(※四首 其一)	天保4	癸巳	1833	17	七絶	遺上 001-1	1-a	19			1-1	2A(清狂吟稿 A3) ※頭に「癸巳」 の二字あり																						
1-2	寄懷秋晚香(※四首 其二)	天保4	癸巳	1833	17	七絶	遺上 001-2	1-a	19			1-2	2A(清狂吟稿 A3)																						
1-3	寄懷秋晚香(※四首 其三)	天保4	癸巳	1833	17	七絶	遺上 001-3	1-a	19			1-3	2A(清狂吟稿 A3)																						
1-4	寄懷秋晚香(※四首 其四)	天保4	癸巳	1833	17	七絶	遺上 001-4	1-a	19			1-4	2A(清狂吟稿 A3)																						
2	雁	天保4	癸巳	1833	17	七律	遺上 002	1-b	20			2	2B(清狂吟稿 A4) ※頭に「癸巳」 の二字あり																						
3	項羽					七律	遺上 003	1-b	20																										
4-1	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其一)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-1	1-b	20																										
4-2	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其二)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-2	2-a	20																										
4-3	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其三)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-3	2-a	20																										
4-4	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其四)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-4	2-a	20																										
4-5	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其五)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-5	2-b	21																										
4-6	落花吟三十首次韻龍護叔録六(以下甲子之作※其六)	天保5?	甲午?	(1834)?	18?	七律	遺上 004-6	2-b	21																										
5	大阪	天保5?	甲午?	1834?	18?	七律	遺上 005	2-b	21			5	3A(清狂吟稿 A4) ※「大坂」																						
6-1	次龍護師切指詩韻三首(※其一)	天保5	甲午	1834	18	七絶	遺上 006-1	3-a	21			3-1	2B(清狂吟稿 A4) ※前に「甲午」 の二字あり。「 次龍護老師切 指詩韻」																						
6-2	次龍護師切指詩韻三首(※其二)	天保5	甲午	1834	18	七絶	遺上 006-2	3-a	21			3-2	2B(清狂吟稿 A4) ※前に「甲午」 の二字あり。「 次龍護老師切 指詩韻」																						
6-3	次龍護師切指詩韻三首(※其三)	天保5	甲午	1834	18	七絶	遺上 006-3	3-a	21			3-3	3A(清狂吟稿 A4) ※前に「甲午」 の二字あり。「 次龍護老師切 指詩韻」																						
7	※晩發下津井至室津舟中	天保5?	甲午?	1834?	18?	七律						4	3A(清狂吟稿 A4)																						
8-1	※夜潮淀河(※二首 其一)	天保5?	甲午?	1834?	18?	七絶						6-1	3B(清狂吟稿 A5)																						
8-2	※夜潮淀河(※二首 其二)	天保5?	甲午?	1834?	18?	七絶						6-2	3B(清狂吟稿 A5)																						
9	平安	天保6	乙未	1835	19		遺上 007	3-a	21			7	3B(清狂吟稿 A5) ※前に「乙未」 の二字あり																						
10	一谷懷古	天保6?	乙未?	(1835)?	19?	七律	遺上 008	3-b	22																										

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘			
											『清狂吟稿』 卷之一A				『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C			『鄙稿』D		
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番		通し番号		通し番		通し番号							
18	晩春廿又六日洋寝亭東窓下殘眠未覺鷗村俄呼催廣陵遊倉卒上舟賦此詩備遺忘/※晩春念六之晩、洋寝亭東窓下春眠未覺曉夢猶迷。友人鷗村俄呼聞枕之夢■(催?)廣陵遊、倉卒旅装上舟、戲賦一絶以備他日遺忘	天保12	辛丑	1841	25	七絶	遺上016	5-b	24											23	晩春念六之晩、洋寝亭東窓下春眠未覺曉夢猶迷。友人鷗村俄呼聞枕之夢■(催?)廣陵遊、倉卒旅装上舟、戲賦一絶以備他日遺忘																	
19	※放舟	天保12	辛丑	1841	25	七古														24	「放舟」の詩題下に(以下批評係阪井厩山翁)とあり											1	放舟					
20	※洞口晩泊	天保12	辛丑	1841	25	五律														25	洞口晩泊											2	洞口晩泊					
21	※丸石舟中	天保12	辛丑	1841	25	七絶														26	丸石舟中											3	丸石舟中					
22	嚴島/※嚴嵩	天保12	辛丑	1841	25	五律	遺上017	6-a	24											27	嚴嵩											4	嚴嵩					
23	舟抵廣城	天保12	辛丑	1841	25	七絶	遺上018	6-a	24											28	舟抵廣城											5	舟抵廣城					
24	初謁虎山先生賦呈/※初謁坂井厩山翁賦呈	天保12	辛丑	1841	25	七律	遺上019	6-a	24											29	初謁坂井厩山翁賦呈											6	初謁坂井先生賦呈					
25	廣城/※廣城二首(※其二)	天保12	辛丑	1841	25	七律	遺上020	6-b	25											30-2	廣城二首(※其二)											7-2	廣城二首(※其二)					
26	舟發廣城	天保12	辛丑	1841	25	七絶	遺上021	6-b	25											31	舟發廣城											8	舟發廣城					
27	餌浦候潮/※繪場浦候潮	天保12	辛丑	1841	25	七絶	遺上022	6-b	25											32	繪場浦候潮											9	餌浦候潮					
28	※嚴灘舟中	天保12	辛丑	1841	25	七絶														33	嚴灘舟中											10	嚴灘舟中					
29	※大野浦夜泊	天保12	辛丑	1841	25	五律														34	大野浦夜泊											11	大野浦夜泊					
30	奉呈弘道館諸先生	天保10?	己亥?	(1839)?	23?	七律	遺上023	7-a	25																													
31	梅雨			(1836)	20	七律	遺上024	7-a	25																													
32	外湖中秋次不及老師詩韵	天保7	丙申	1836	20	七律	遺上025	7-a	25				12	5B(清狂吟稿A7) ※前に「丙申」の二字あり																								
33	旅夜	(天保12)	(辛丑)	(1841)	25	七律	遺上026	7-b	26				13	5B(清狂吟稿A7)																								
34	新寒 課題			(1836)	20	七律	遺上027	7-b	26				14	6A(清狂吟稿A7)																								
35	丁酉元日	天保8	丁酉	1837	21	七律	遺上028	8-a	26																													
36	春遊					七律	遺上029	8-a	26																													
37	※佐嘉客中、游了也樓、觀垂枝櫻	天保8	丁酉	1837	21	七絶							15	6A(清狂吟稿A7) 「佐嘉客中、游了也樓、觀垂枝櫻」 ※前に「丁酉」の二字あり																								
38	畫題					七絶	遺上030	8-a	26																													
39	又(※画題)/題画					七絶	遺上031	8-b	27				16	6B(清狂吟稿A8) ※「題画」に作																								

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令		『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/関重弘・若言	
							『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
							No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号					
40	君言					五古	遺上 032	8-b	27			17	6B(清狂吟稿A8)																								
41	送人歸深濤					七律	遺上 033	8-b	27																												
42	秋日田家即日					七絶	遺上 034	9-a	27																												
43	精里除夜	天保8		1837	21	五律	遺上 035	9-a	27																												
44	戊戌元旦	天保9	戊戌	1838	22	七絶	遺上 036	9-a	27																												
45	賀珮川先生卜居					七律	遺上 037	9-b	28																												
46	珮川先生見示一枝巢居賦疊前韻再奉呈	前詩のすぐ後の作				七律	遺上 038	9-b	28																												
47	次佐嘉侯與水戸侯唱和詩韵		戊戌	1838	22	七律	遺上 039	9-b	28			18	7A(清狂吟稿A8)																								
48-1	榮城雜詠(※四首)其一/※佐嘉雜咏					七絶	遺上 040	10-a	28			19-1	7A(清狂吟稿A8) ※「佐嘉雜咏」に作る																								
48-2	榮城雜詠(※四首)其二/※佐嘉雜咏					七絶	遺上 040	10-a	28			19-2	7A(清狂吟稿A8) ※「佐嘉雜咏」に作る																								
48-3	榮城雜詠(※四首)其三/※佐嘉雜咏					七絶	遺上 040	10-a	28			19-3	7A(清狂吟稿A8) ※「佐嘉雜咏」に作る																								
48-4	榮城雜詠(※四首)其四/※佐嘉雜咏					七絶	遺上 040	10-a	28			19-4	7B(清狂吟稿A9) ※「佐嘉雜咏」に作る																								
49	東崎陽梧門畫宗/※簡崎陽梧門		庚子?	1840?		七絶	遺上 041	10-b	29							15	簡崎陽梧門																				
50	次伊藤遊山寄草立大詩韻并呈立大					七律	遺上 042	10-b	29																												
51	田出嶋寓居					五律	遺上 043	10-b	29																												
52	珮川先生見寄示湖珠別函疊韻唱和集次其原韵以謝					七律	遺上 044	11-a	29			20	7B(清狂吟稿A9) ※「珮川草場先生見寄示湖珠別函疊韻唱和集次其原韵以謝」																								
53	珮川先生携令嗣立大君見訪余於精里寓居疊前韻以呈	前詩のすぐ後の作				七律	遺上 045	11-a	29			21	7B(清狂吟稿A9)																								
54	珮川先生作墨竹數幅見惠復疊前韻鳴謝	前詩のすぐ後の作				七律	遺上 046	11-b	30			22	8A(清狂吟稿A9)																								
55	己亥元旦分得三字	天保10	己亥	1839	23	七律	遺上 047	11-b	30																												
56	春曉雨寒鬪得韻寒/※春曉雨寒(佐嘉侯賜題)	天保10	己亥	1839	23	七律	遺上 048	12-a	30			26	9B(清狂吟稿A11) ※前に「己亥」二字有り「春曉雨寒(佐嘉侯賜題)」に作る																								
57	題松童子詩卷後					七律	遺上 049	12-a	30																												
58	鼓嶽西兄誘予赴丹邱途中作					七律	遺上 050	12-b	31			27	10A(清狂吟稿A11)																								
59	踏青次某生韻					七絶	遺上 051	12-b	31																												
60	春雨有感					七律	遺上 052	12-b	31																												
61	將發佐嘉留別圯南武富君			(1839)	23	七律	遺上 053	13-a	31			28	10A(清狂吟稿A11)																								
62	馬嶋拙堂有韻杯惠戲賦此詩以謝					七古	遺上 054	13-a	31																												
63	將遊崎前一夕精善館諸君見餞賦此以謝					七絶	遺上 055	13-b	32																												
64	雨中入長崎/※雨中入崎陽					七絶	遺上 056	13-b	32			23	8A(清狂吟稿A9) ※「雨中入崎陽」に作る																								
65-1	長崎雜咏(※十首)其一/※長崎雜詠十首					七絶	遺上 057-1	13-b	32			24-1	8B(清狂吟稿A10) ※「長崎雜詠十首」に作る																								
65-2	長崎雜咏(※十首)其二/※長崎雜詠十首					七絶						24-2	8B(清狂吟稿A10) ※「長崎雜詠十首」に作る																								
65-3	長崎雜咏(※十首)其三/※長崎雜詠十首					七絶	遺上 057-2	13-b	32			24-3	8B(清狂吟稿A10) ※「長崎雜詠十首」に作る																								

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東遊詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘	
											『清狂吟稿』 卷之一A				『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄺稿』A		『鄺稿』B		『庚戌未定稿』		『鄺稿』C			『鄺稿』D
						No.	葉数	pdf	通し番号	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号	通し番号			
65-4	長崎雑咏(※十首)其四/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-3	13-b	32			24-4	8B(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-5	長崎雑咏(※十首)其五/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-4	13-b	32			24-5	9A(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-6	長崎雑咏(※十首)其六/※長崎雑詠十首					七絶						24-6	9A(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-7	長崎雑咏(※十首)其七/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-5	13-b	32			24-7	9A(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-8	長崎雑咏(※十首)其八/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-6	14-b	33			24-8	9A(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-9	長崎雑咏(※十首)其九/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-7	14-b	33			24-9	9A(清狂吟稿A10) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
65-10	長崎雑咏(※十首)其十/※長崎雑詠十首					七絶	遺上 057-8	14-b	33			24-10	9B(清狂吟稿A11) ※「長崎雑詠十首」に作る																							
66	鶴枕					七絶	遺上 058	14-b	33			25	9B(清狂吟稿A11)																							
67	同西子堅山里風遊鬼界島舟中			(1839)	23	五律	遺上 059	14-b	33																											
68	俊寛僧都墓下作			(1839)	23	五絶	遺上 060	15-a	33																											
69	鬼界島夜泊			(1839)	23	七律	遺上 061	15-a	33																											
70	觀蘭船度南洋			(1839)	23	七古	遺上 062	15-a	33																											
71	崎陽早發西如柏見餞於瀨橋旗店			(1839)	23	七律	遺上 063	16-a	34																											
72	贈叔襄			(1839)	23	七律	遺上 064	16-a	34																											
73	歸途有作			(1839)	23	五律	遺上 065	16-b	35																											
74	庚子元日和某生韻/※早春有作	天保11	庚子	1840	24	七律	遺上 066	16-b	35										2	早春有作																
75	※元日	天保11	庚子	1840	24	七絶													1	元日																
76	※春寒					七絶													3	春寒																
77	※春陰					七絶													4	春陰																
78-1	春詞十首節三 其一/※春晴		庚子	1840	24	七絶	遺上 067	16-b	35			30-1	11A(清狂吟稿A12) ※前に「庚子」の二字有り。「春詞十首(節録三首)」に作る																							
78-2	春詞十首節三 其二/※春雨			1840	24	七絶	遺上 067	17-a	35			30-2	11A(清狂吟稿A12) ※「春詞十首(節録三首)」に作り、この詩の末に「春雨」とある																							
79	※春夜					七絶													7	7春夜																
80	※春曉					七絶													8	8春曉																
81	※春晝					七絶													9	9春晝																
82	春詞十首節三 其三/※春月			1840	24	七絶	遺上 067	17-a	35			30-3	11A(清狂吟稿A12) ※「春詞十首(節録三首)」に作り、この詩の末に「春月」とある																							
83	※春水					七絶													11	春水																
84	※春暮					七絶													12	春暮																
85	五鬼神燈/※五鬼神燈(某山房八勝一)			(1840)	24	五絶	遺上 068	17-a	35			31	11B(清狂吟稿A13)						13	五鬼神燈(某山房八勝一)																

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番号				
86	※諸者某來訪賦贈					七絶												14	諸者某來訪賦贈	5	諸者某來訪賦贈 (※詩題以外の全詩が墨書で縦に線が引かれている。欄外上に墨書で〈在前〉とあるのは既に『未定清狂吟稿』)														
87	※題舊稿後并引		庚子	1840	24	七絶												16	題舊稿後并引																
88-1	※無題四時詞 課題 八首(其一)					七絶												17-1	無題四時詞 課題 八首(其一)																
88-2	※無題四時詞 課題 八首(其二)					七絶												17-2	無題四時詞 課題 八首(其二)																
88-3	※無題四時詞 課題 八首(其三)					七絶												17-3	無題四時詞 課題 八首(其三)																
88-4	※無題四時詞 課題 八首(其四)					七絶												17-4	無題四時詞 課題 八首(其四)																
88-5	※無題四時詞 課題 八首(其五)					七絶												17-5	無題四時詞 課題 八首(其五)																
88-6	※無題四時詞 課題 八首(其六)					七絶												17-6	無題四時詞 課題 八首(其六)																
88-7	※無題四時詞 課題 八首(其七)					七絶												17-7	無題四時詞 課題 八首(其七)																
88-8	※無題四時詞 課題 八首(其八)					七絶												17-8	無題四時詞 課題 八首(其八)																
89-1	亡祖聞名院大祥忌賦以誌懷(※五首)其一	天保10	己亥	1839	23	七絶	遺上 069	17-a	35			29-1	10B(清狂吟稿 A12)																					亡祖父聞名院三面忌辰賦此((此)もと<之>)に作るも右横に朱で改む)述懐 山口県立山口博物館所蔵「草稿」J4-1(DSC9012 整理番号212-137)	
89-2	亡祖聞名院大祥忌賦以誌懷(※五首)其二	天保10	己亥	1839	23	七絶	遺上 069	17-b	36			29-2	10B(清狂吟稿 A12)																					亡祖父聞名院三面忌辰賦此((此)もと<之>)に作るも右横に朱で改む)述懐 山口県立山口博物館所蔵「草稿」J4-2(DSC9012 整理番号212-137)	
89-3	亡祖聞名院大祥忌賦以誌懷(※五首)其三	天保10	己亥	1839	23	七絶	遺上 069	17-b	36			29-3	10B(清狂吟稿 A12)																						亡祖父聞名院三面忌辰賦此((此)もと<之>)に作るも右横に朱で改む)述懐 山口県立山口博物館所蔵「草稿」J4-3(DSC9012 整理番号212-137)
89-4	亡祖聞名院大祥忌賦以誌懷(※五首)其四	天保10	己亥	1839	23	七絶	遺上 069	17-b	36			29-4	10B(清狂吟稿 A12)																						亡祖父聞名院三面忌辰賦此((此)もと<之>)に作るも右横に朱で改む)述懐 山口県立山口博物館所蔵「草稿」J4-4(DSC9012 整理番号212-137)
89-5	亡祖聞名院大祥忌賦以誌懷(※五首)其五	天保10	己亥	1839	23	七絶	遺上 069	17-b	36			29-5	10B(清狂吟稿 A12)																						
90	※元日	天保12	辛丑	1841	25													19	元日(※前に (辛丑)の二字 有り)																
91	※題赤閑妓女圖(應人需)	天保12	辛丑	1841	25	七絶												20	題赤閑妓女圖 (應人需)																
92	聞草立大東上遙有此寄／※聞草場立大東上遙有此寄	天保12	辛丑	1841	25	七絶	遺上 070	17-b	36			32	11B(清狂吟稿 A13) ※前に「辛丑」 二字有り						21	後聞草場立大東上遙有此寄(※(後)字は大きく滲み(聞)字とやや離れており、次の詩「江村散歩」の(前)字と関係する)															

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/関重弘、			
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D					
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番		通し 番号					
93	江村散歩/※江浦散歩/江村散歩(拾遺)	天保12	辛丑	1841	25	五律	遺上 071	18-a	36			33	11B(清狂吟稿A13)							22	前江浦散歩 (※(前)字は大きく滲み (聞)字とやや離れており、 前の詩「?聞草場立大東上遥 有此寄」の (後)字と関係するか)	15	江村散歩(拾遺)															
94	巖島	天保12	辛丑	1841	25	五律	遺上 072	18-a	36			34	12A(清狂吟稿A13)																									
95	廣島/※廣寫/※廣城二首(※其一)	天保12	辛丑	1841	25	七律	遺上 073	18-a	36			35	12A(清狂吟稿A13)「廣寫」							30-1	廣城二首(※其一)									7-1	廣城二首(※其一)							
96	臥虎山歌贈坂井先生/※臥虎山歌贈坂井先生	天保12	辛丑	1841	25	七古 (四句換韻)	遺上 074	18-b	37			36	12B(清狂吟稿A14) 「臥虎山歌贈坂井先生」									10	戲作臥甬山歌贈坂井甬山翁		3	臥甬山歌贈坂井先生												
97	自廣嶋歸崎舟中/※自大野歸遠崎舟中	天保12	辛丑	1841	25	五律	遺上 075	19-a	37			37	13B(清狂吟稿A15)							35	自大野歸遠崎舟中									12	自大野歸遠崎舟中							
98	※自山口至覇城途中	天保12	辛丑	1841	25	七絶														36	自山口至覇城途中	2	自山口至覇城途中															
99	※暮雨送人(課題)/※暮雨送人(課題瀨城客中所作)/※暮雨送人(萩城有八江、故結及之)	天保12	辛丑	1842	26	七絶														37	暮雨送人(課題)	3	暮雨送人(課題瀨城客中所作)										2	暮雨送人(萩城有八江、故結及之)				
100	※次韻甬山翁見酬作以呈/※次韻坂井甬山翁見酬作以呈/虎山先生見酬作以呈	天保12	辛丑	1841	25	七律														38	次韻甬山翁見酬作以呈(※『未定小稿』次韻坂井甬山翁見酬作以呈)	1	次韻坂井甬山翁見酬作以呈										1	虎山先生見酬作以呈 この『鄙稿』のはじまりに (次)の一字有り				
101	白蓮池	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶	遺上 076	19-a	37			38	13B(清狂吟稿A15)									4	白蓮池										3	白蓮池				
102	追悼思堂上人	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	五律	遺上 077	19-b	38													6	追悼思堂上人															
103	※又次韻其絶息詩	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶																7	又次韻其絶息詩															
104	室津	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七律	遺上 078	19-b	38													11	室津															
105	酒間賦似尾星灣/※長尾星灣招飲賦謝/※酒間賦似尾星灣	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶	遺上 079	19-b	38			40	14A(清狂吟稿A15) 「長尾星灣招飲賦謝」									12	酒間賦似尾星灣															
106	偶成/※病中偶成	配列から いえば天 保13?)	(壬寅?)	(1841?)	(26?)	五律	遺上 080	20-a	38			41	14A(清狂吟稿A15) ※「病中偶成」									13	偶成															
107	※春雨夜坐分得山字 同前(※拾遺)					五律																16	春雨夜坐分得山字 (同前)(※拾遺)」															
108-1	※摘句																					17	摘句(※文字不鮮明)															
108-2	※摘句																					18	摘句(※文字不鮮明)															
109	冬杪臥病次韻某上人近製以似秋鷗村鷗村時病瘥故七八及之/※冬杪臥病次韻其上人近製以似秋鷗村。鷗村亦病瘥不謬故七八及之	天保11	庚子	1840	24	七律	遺上 081	20-a	38											18	「冬杪臥病次韻某上人近製以似秋鷗村。鷗村亦(もと(時)に作るも墨書で改む)病瘥不謬、故七八及之」																	

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/『扇面詩(長府博物館所蔵)/『東遊詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘					
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番		通し番号		通し番		通し番号									
110	※戯賦贈■(砂?硯?)田信卿女史/※開田信卿女史臥病賦	(天保12)	(辛丑)	(1841)																8/14	8「戯賦贈■(砂?硯?)田卿女史(もと<樂事■(杉?硯?)田信卿女史 代秋鷗村戯賦)に作り題注「代秋鷗村戯賦」を墨で縦に抹消)」 14「開田信卿女史臥病賦」((もと「開田信卿女史臥病賦 代秋鷗村」に作り題注「代秋鷗村」を墨																			
111-1	消寒詞次韻楊閨卿女史(原三)/※消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其一)	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶	遺上082	20-a	38			39	14A(清狂吟稿A15)								9-1	消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其一)																		
111-2	消寒詞次韻楊閨卿女史(原三)/※消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其二)	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶															9-2	消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其二)																		
111-3	消寒詞次韻楊閨卿女史(原三)/※消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其三)	(天保12)	(辛丑)	(1841)	(25)	七絶															9-3	消寒詞次韻楊閨卿女史詩(原三首)(※其三)																		
112	梨花寮寓居賦呈醒窓恒遠先生(時平門侯、將聘先生以爲賓師、故七八及之)/※壬寅春、再寓藏園、賦奉(<奉>もと脱するも(賦)と<呈>の間に朱で小さな○を打ちその右横にも朱で小さな○を打ちその下に朱で<奉>を補う)呈醒窓先生(開平戸侯、將聘先生以爲賓師、故詩中及之)	天保13	壬寅	1842	26	七律	遺上083	20-b	39			42	14B(清狂吟稿A16) 「梨花寮寓居賦呈醒窓恒遠先生(時平門侯將聘先生以爲賓師、故七八及之)」※前に「壬寅」の二字有り									1	「壬寅春、再寓藏園、賦奉(<奉>もと脱するも(賦)と<呈>)の間に朱で小さな○を打ちその右横にも朱で小さな○を打ちその下に朱で<奉>を補う)呈醒窓先生(開平																	
113	次恆牛山見似詩韵					七絶						43	15A(清狂吟稿A16)																											
114	求菩提山銅版妙法典歌					七古(換韻)	遺上084	20-b	39			44	15B(清狂吟稿A17a17b)																											
115	原井途上口占					七絶	遺上085	21-a	39			45	16A(清狂吟稿A17a17b)																											
116	平門舟中					七律	遺上086	21-b	40			46	16B(清狂吟稿A18)																											
117	江皋釣隠圖					七律	遺上087	21-b	40			47	16B(清狂吟稿A18)																											
118	蟬					五律	遺上088	22-a	40			48	17A(清狂吟稿A18)																											
119	紗幘(咏物十首録三)					七律	遺上089	22-a	40			49	17A(清狂吟稿A18) ※「紗幘(咏物課題十首之一)」に作る																											
120	夏菊					七律	遺上090	22-a	40			50	17A(清狂吟稿A18) ※「夏菊(同上)」に作る																											
121	秋草/※秋艸					七律	遺上091	22-b	41			51	17B(清狂吟稿A19) ※「秋艸(同上)」に作る																											
122	※中元					七絶						52	17B(清狂吟稿A19)																											
123	送安武生歸郷					七絶	遺上092	22-b	41			53	18A(清狂吟稿A19)																											
124-1	晚涼二首(※其一)					七絶	遺上093-1	22-b	41			54-1	18A(清狂吟稿A19)																											
124-2	晚涼二首(※其二)					七絶	遺上093-2	23-a	41			54-2	18A(清狂吟稿A19)																											
125	寄懷醒窓先生在長崎/※奉(<奉>もと脱するも<寄>の上に朱で小さな○を打ちその右横にも朱で<奉>を補いその下にまた朱で小さな○を打つ)寄懷醒窓先生在長崎	天保13	壬寅	1842	26	七絶	遺上094	23-a	41			55	18B(清狂吟稿A20)									2	奉(<奉>もと脱するも<寄>の上に朱で小さな○を打ちその右横にも朱で<奉>を補いその下にまた朱で小さな○を打つ)寄懷醒窓先生在																	
126	醒窓先生從崎歸賦呈	天保13	壬寅	1842	26	七律	遺上095	23-a	41			56	18B(清狂吟稿A20)																											

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵版/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘					
						『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番			通し 番号				
127	書感					七律	遺上 096	23-b	42			57	19A(清狂吟稿A20) ※末尾に〈通計古今體共八十首〉(清狂吟稿卷之一終)有り		※※前葉に張り紙で(清狂吟稿卷之二)一行空いて(癸卯)、改行して(政令)の字有り。この葉には前詩の「書感」詩を書くも、「																									
128	政令/※癸卯春日(時西南見白氣、人或以為廣東外寇之兆、五六故及○附録气政)	天保14	癸卯	1843	27	七律	遺上 097	23-b	42				1	②(清狂吟稿C67) ※前葉に張り紙で(清狂吟稿卷之二)一行空いて(癸卯)、改行して(政令)の字有り。この葉には前詩の「書感」詩を書くも、「書感」詩が卷之一になるためか斜線を入れて、次の「政令」の詩題まで抹消している。この「書感」詩と『清狂吟稿』卷之一A「書												7	癸卯春日(時西南見白氣、人或以為廣東外寇之兆、五六故及○附録气政)													
129	巴羅途上	天保14	癸卯	1843	27	七絶	遺上 098	24-a	42				3	③清狂吟稿C68																										
130	將游廣嶋二月十二日出家	天保14	癸卯	1843	27	五律	遺上 099	24-a	42				2	③清狂吟稿C68																										
131	自洞口赴廣嶋舟中卽事/※自洞口赴廣嶋舟中卽事	天保14	癸卯	1843	27	五律	遺上 100	24-a	42				4	③清狂吟稿C68「自洞口赴廣嶋舟中卽																										
132	廣嶋謁東照公祠	天保14	癸卯	1843	27	七律	遺上 101	24-a	42				5	③清狂吟稿C68「廣嶋謁東照公祠」(〈謁〉もと〈拜〉)に作るも墨で改む)																										
133	十四夜虎山先生招飲濱野章吉木原愼齋堀小一諸君亦來會先生使女校書英行酒/※「■(横棒は見えるもその右が虫喰い)四夜虎山先生招飲。濱野章吉(〈章吉〉もと〈箕山〉)に作るも朱で改む)・木原愼齋・堀小一諸(〈諸〉の右に朱で字があるも抹消)君亦來(〈君亦來〉もと〈君來〉)に作るも朱で(亦)を補う)會。先生使女校書英行酒」	天保14	癸卯	1843	27	七律	遺上 102	24-b	43				6	③清狂吟稿C68「■(横棒は見えるもその右が虫喰い)四夜虎山先生招飲。濱野章吉(〈章吉〉もと〈箕山〉)に作るも朱で改む)・木原愼齋・堀小一諸(〈諸〉の右に朱で字があるも抹消)君亦來(〈君亦來〉もと〈君來〉)に作るも朱で(亦)を補う)																										
134	※萩府客中雨夜同周布瘦梅會於(〈於〉もと無きも朱で加える)北條小湊家、劇談徹曉、分韵得眞(※最後は詩題も詩も墨点で抹消)					七律							7	清狂吟稿C69「萩府客中雨夜同周布瘦梅會於(〈於〉もと無きも朱で加える)北條小湊家、劇談徹曉、分韵得」																										

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵版/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、					
						『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号							
135	萩府客中六月二十八日同北條小湊周布瘦梅二子浮舟納涼於河上是日住吉禪祭/※六((六)の上に小さな○を打ち、欄外上の(萩府客中)の下の小さな○と呼応)月二十八日、同北條((北條)二字は墨書で書き足し)小湊周布((周布)二字は墨書で書き足し)瘦梅二子((二子)二字は朱で書き足し)浮舟納涼於河上((納涼於河上)はもと(旂河上納涼)に作るも(旂河上)と(納涼)を入れ替えて、(旂)を(於)に朱で改む)是日住吉禪祭					七絶	遺上 103	24-b	43					8	④清狂吟稿 C69「六((六)の上に小さな○を打ち、欄外上の(萩府客中)の下の小さな○と呼応)月二十八日、同北條((北條)二字は墨書で書き足し)小湊周布((周布)二字は墨書で書き足し)瘦梅二子((二子)二字は朱で書き足し)浮舟納涼於河上((納涼於河上)はもと(旂河上納涼)に作るも(旂河上)と(納涼)を入れ替えて、(旂)を(於)に																									
136-1	將東游題壁(※二首 其一)/※癸卯秋、將東遊、賦此書壁(※二首 其一)	天保14	癸卯	1843	27	七絶	遺上 104-1	25-a	43					9-1	④清狂吟稿 C69																			癸卯秋、將東遊、賦此書壁(※二首 其一) 關重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下10-1						
136-2	將東游題壁(※二首 其二)/※癸卯秋、將東遊、賦此書壁(※二首 其一)	天保14	癸卯	1843	27	七絶	遺上 104-1	25-a	43					9-2	④清狂吟稿 C69																			癸卯秋、將東遊、賦此書壁(※二首 其二) 關重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下10-2						
137	中秋氏名嶋夜泊懷虎山先生	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 105	25-a	43					10	④清狂吟稿 C69																									
138	舟入廣嶋	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七絶	遺上 106	25-b	44					11	⑤清狂吟稿 C70																									
139	偶讀方正學愛日堂詩有感即次韻	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	雜言	遺上 107	25-b	44																															
140	滿城	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 108	25-b	44					12	⑤清狂吟稿 C70																									
141-1	小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅菴之作、讀其詩而知梅菴錢塘人、戊戌之冬、將來游長崎、已發遇颺而返、錄寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣颺和之、以正二先生(※其一)/※錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、錄寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父土、嚮伊勢拙堂齋藤先生、次其韵、余亦学和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固賦才剪劣、非欲與先生爭華鋒、以傳之海外也、幸拾餘唾以為自■耳(※其一)	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 109-1	26-a	44					13-1	⑤清狂吟稿 C70 「小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅菴之作、讀其詩而知梅菴錢塘人、戊戌之((戊戌之)もと(去年)に作るも右に朱で改む)冬、將來游長崎、已發遇颺而返、錄寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣颺和之、以正二先生」(其一)										1-1	錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、錄寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父土、嚮伊勢□(一字空格)拙堂齋藤先生、次其((其)もと脱するも(次)と(韵)の間に朱で点を打ちその右横に朱で補う韵見酬((見酬)二字、朱で抹消の点を打っている)、余亦学((学)もと(試)に作るも(試)に朱で点を打ち右横に改む)和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固														

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘									
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D															
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番号													
141-2	小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅巷之作、讀其詩而知梅巷錢塘人、戊戌之冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣疊和之、以正二先生(※其二)/※錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、録寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父士、嚮伊勢拙堂齋藤先生、次其韵、余亦学和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固賦才剪劣、非欲與先生爭筆鋒、以傳之海外也、幸拾餘唾以為自■耳(※其二)	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 109-2	26-b	45				13-2	⑤清狂吟稿 C70 「小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅庵之作、讀其詩而知梅庵錢塘人、戊戌之((戊戌之)もと(去年)に作るも右に朱で改む)冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣疊和之、以正二先生」(其二)												1-2	錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、録寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父士、嚮伊勢□(一字空格)拙堂齋藤先生、次其((其)もと脱するも(次)と(韵)の間に朱で点を打ちその右横に朱で補う韵見酬((見酬)二字、朱で抹消の点を打っている)、余亦学((学)もと(試)に作るも(試)に朱で点を打ち右横に改む)和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固																	
141-3	小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅巷之作、讀其詩而知梅巷錢塘人、戊戌之冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣疊和之、以正二先生(※其三)/※錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、録寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父士、嚮伊勢拙堂齋藤先生、次其韵、余亦学和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固賦才剪劣、非欲與先生爭筆鋒、以傳之海外也、幸拾餘唾以為自■耳(※其三)	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 109-3	26-b	45				12-3	⑥清狂吟稿 C71 「小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅庵之作、讀其詩而知梅庵錢塘人、戊戌之((戊戌之)もと(去年)に作るも右に朱で改む)冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣疊和之、以正二先生」(其三)													1-3	錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、録寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父士、嚮伊勢□(一字空格)拙堂齋藤先生、次其((其)もと脱するも(次)と(韵)の間に朱で点を打ちその右横に朱で補う韵見酬((見酬)二字、朱で抹消の点を打っている)、余亦学((学)もと(試)に作るも(試)に朱で点を打ち右横に改む)和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固																

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/『扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
141-4	小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅巷之作、讀其詩而知梅巷錢塘人、戊戌之冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣颺和之、以正二先生(其四)/※錢塘王樸庵、戊戌仲冬將來游長崎、遇颺自半途返、録寄其臨發留別同社詩四首、索和於本邦父土、嚮伊勢拙堂齋藤先生、次其韵、余亦学和之、((固)の前に朱で右横まで線を引き朱で(以下刪似可)とあり)固賦才剪劣、非欲與先生爭華鋒、以傳之海外也、幸拾餘唾以為自■耳(※其四)	(天保14)	(癸卯)	(1843)	(27)	七律	遺上 109-4	26-b	45				13-4	⑥清狂吟稿 C71 「小竹篠崎先生、見示津藩齋藤拙堂先生次韻王梅巷之作、讀其詩而知梅巷錢塘人、戊戌之((戊戌之)もと(去年)に作るも右に朱で改む)冬、將來游長崎、已發遇颺而返、録寄其將發時、留別同社詩四首、索和於本邦文士也、余亦倣颺和之、以正二先生」(其四)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令		『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/『扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘
							『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
							No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号				
155	次虞淵師見似詩韻以呈/※次其見似詩韻以呈	弘化2	乙巳	1845	29	七絶	遺上120	29-b	48				24	⑩清狂吟稿C75 ※「次其見似詩韻以呈」に																						
156	養老瀑布	弘化2	乙巳	1845	29	雜言	遺上121	29-b	48				25	⑩清狂吟稿C75																						
157	過津城訪拙堂先生賦呈	弘化2	乙巳	1845	29	七古	遺上122	30-a	48				26	⑩清狂吟稿C75																						
158	陪虞淵師游嵐峽遇雨宿月亭分韻而賦	弘化2	乙巳	1845	29	七律	遺上123	30-b	49				27	⑪清狂吟稿C76																						
159	上巳前一日同虞淵師訪麻緑香席上次師見似詩韻	弘化2	乙巳	1845	29	七絶	遺上124	31-a	49				28	⑪清狂吟稿C76																						
160	七夕浪華橋僑居迎小竹先生父子及松陰後藤先生飲醉後有懷安藝臥虎山人	弘化2	乙巳	1845	29	七律	遺上125	31-a	49				29	⑫清狂吟稿C77																						
161	既望之夜小竹先生泛舟與松陰訥堂兩公游櫻祠余亦與焉	弘化2	乙巳	1845	29	七古	遺上126	31-b	50				30	⑫清狂吟稿C77																						
162	※九日	弘化2	乙巳	1845	29	七律							31	⑬清狂吟稿C78 「九日(〈日〉もとをく■(重?))に作るも胡粉で																						
163	桑名田畠川見恵其土宜時雨蛤者戲賦短古以謝	弘化2	乙巳	1845	29	七古	遺上127	32-a	50				33	⑬清狂吟稿C78 「桑名田畠川見恵其土宜時雨蛤者、戲賦短古(〈短古〉も																						
164	十三夜梅塾諸子來訪分韻而賦	弘化2	乙巳	1845	29	五律	遺上128	32-a	50				34	⑬清狂吟稿C78																						
165	小葦山歌呈小竹先生	弘化2	乙巳	1845	29	七古	遺上129	32-b	51				35	⑬清狂吟稿C78																						
166	送河添原泉歸薩摩/甲辰秋、浪華客舍、送河添原泉歸薩摩	弘化1/弘化2?	甲辰/乙巳?	1844/1845?		七律	遺上130	33-a	51				36	⑭清狂吟稿C79																				甲辰秋、浪華客舍、送河添原泉歸薩摩 關重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下4(※校勘未		
167	送人歸明石	弘化2	乙巳	1845	29	七絶	遺上131	33-a	51				37	⑭清狂吟稿C79																						
168	※戲題梅菊爭色詩卷後(※二首 其一)	弘化2	乙巳	1845	29	七絶							38-1	⑭清狂吟稿C79 「戲題梅菊爭色詩卷後」																						
169	※戲題梅菊爭色詩卷後(※二首 其二)	弘化2	乙巳	1845	29	七絶							38-2	⑭清狂吟稿C79 「戲題梅菊爭																						
170	陶靖節採菊圖/※靖節採菊圖	弘化2	乙巳	1845	29	七絶	遺上132	33-b	52				32	⑬清狂吟稿C78																				靖節採菊圖 僧月性顕彰会所蔵 DSC08969		
171	義士					雜言	遺上133	33-b	52																											
172	元旦					七律	遺上134	34-a	52																											
173	小竹齋初會次某秀才韻/※小竹齋初會次某秀才詩韵	弘化3	丙午	1846	30	七絶	遺上135	34-b	53				39	⑮清狂吟稿C80 「小竹齋初會次某秀才詩韵」 ※前に「丙午」																						
174	春閨詞	弘化3	丙午	1846	30	七絶	遺上136	34-b	53				吟②40	⑮清狂吟稿C80																						

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号						
175-1	次安藝安井生見寄詩韻却寄五首(節二)(※其一)	弘化3	丙午	1846	30	七絶	遺上 137-1	34-b	53				吟② 41-1	⑮清狂吟稿 C80 『次安藝安井生見寄詩韵却寄五首(節二首)』(※其一)																					
175-2	次安藝安井生見寄詩韻却寄五首(節二)(※其二)	弘化3	丙午	1846	30	七絶	遺上 137-2	34-b	53				吟② 41-2	⑮清狂吟稿 C80 『次安藝安井生見寄詩韵却寄五首(節二首)』(※其二)																					
176	奉余寺所蔵小佛移秋晚香家係以一絶/※奉余寺所蔵小佛像、移秋晚香家、係以一絶	弘化4	丁未	1847	31	七絶	遺上 138	35-a	53				吟② 42	⑮清狂吟稿 C80 ※初めの行に(奉余寺所蔵小佛像移秋晚香家)まで書きかけて、(奉)字の上に(丁)を、(奉)字を(未)に改めて(丁未)としたところで、(余寺所蔵小佛像移秋晚香家)も墨点で消去し、次行に改めて(奉余寺所蔵小佛像、移秋晚香家、																					
177	浪華拇戦師義浪聞余喜其技、寄天狗拇戦圖需贊戯賦長句一篇以贈	弘化4	丁未	1847	31	七古	遺上 139	35-a	53				43	⑯清狂吟稿 C81 『浪華拇戦師義浪、聞余喜其技、寄天狗拇戦圖需贊、戯賦長句一																					
178	津城客中、陪拙堂先生、游四天王寺、觀蘇東坡畫竹、王半山書雙幅、次半山詩韵、誌感	弘化4	丁未	1847	31	七絶	遺上 140	36-a	54				44	⑯清狂吟稿 C81 ※(津城客中、陪拙堂先生、游(《游》もと(於)もしくは《游》の書き損じを墨書で改む)四天王寺、																					
179	讀秦紀	嘉永元	戊申	1848	32	七律	遺上 141	36-a	54				45	⑰清狂吟稿 C82 ※前に(戊申)の二字有り																				讀秦紀 關重弘・藤田千蔵『近世名家詩鈔』卷下5(※校勘未了)	
180	蟪蛄石應曉月園主人需/※蟪蛄石(應曉月園主人索)					七絶	遺上 142	36-a	54				49	⑱清狂吟稿 C84 『蟪蛄石(應曉月園主人索)』																					
181	赤穂河原土栗、爲余手寫虎山先生文、數十數篇、携來、誘之游大師山、觀櫻/※赤穂河原土栗、爲余手寫虎山先生文、數十篇、携來、誘之游大師山、觀櫻	嘉永元	戊申	1848	32	七古	遺上 143	36-b	55				46	⑰清狂吟稿 C82 ※(赤穂河原土栗(《栗》もと《栗》)に作るも墨書で改む)、爲余手抄(《抄》もと《寫》)作るも未で改む)虎山先生文、數十篇、携來、誘之游																					
182	※贈角抵士草摺	嘉永元	戊申	1848	32	五古							47	⑱清狂吟稿 C83																					

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/『扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号				
183	備中、阪谷希八郎、山鳴弘藏、送仙臺針生大八郎、上毛田中謙三郎、西游至廣嶋、遂來訪余、留宿五日、然後別去、賦此誌喜、并述送別之情、于時四月二十八日也	嘉永元	戊申	1848	32	五古	遺上144	36-b	55				48	⑱清狂吟稿C83 「備中坂谷希八郎、山鳴弘藏、送仙臺針生大八郎、上毛田中謙三郎、西游至廣嶋、遂來訪余、留宿五日、然後別去、賦此誌喜、并述送別																					
184	備後瀧野箕山見來訪賦贈	嘉永元	戊申	1848	32	七律	遺上145	38-a	56				50	⑳清狂吟稿C85																					
185	※緑雲歌調箕山	嘉永元	戊申	1848	32	七古							51	㉑清狂吟稿C85 「緑雲歌調箕山」																					
186	※三好節(書?塾隣家女姉妹之名、戯賦調塾生) ※(三)字のみ朱色。全字の上に抹消の黒点	嘉永元	戊申	1848	32	七絶							52	㉒清狂吟稿C85 「三好節(書?塾隣家女姉妹之名、戯賦調塾生)」																					
187	丹後牛窪茂太郎西游路次見過賦贈茂太郎曾游歴奥羽諸州/※丹後牛窪茂太郎西游路次見過、賦贈。茂太郎曾游歴奥羽諸州云	嘉永元	戊申	1848	32	七律	遺上146	38-b	57				53	㉓清狂吟稿C86 「丹後牛窪茂太郎西游路次見過、賦贈。茂太郎曾游歴奥羽諸州云」																					
188	針生大八郎西游歸路復見過	嘉永元	戊申	1848	32	七律	遺上147	38-b	57				54	㉔清狂吟稿C86																					
189	悼西藤馬	嘉永2	己酉	1849	33	五古	遺上148	39-a	57				55	㉕清狂吟稿C87 ※前に(己酉)の二字有り																					
190	中元、同桂公素、游廣嶋、訪虎山先生、次公素詩韻、以呈先生	嘉永2	己酉	1849	33	七古	遺上149	39-b	58				56	㉖清狂吟稿C87																					
191	某氏園觀菊/※園菊	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上150	40-a	58				57	㉗清狂吟稿C88																			園菊(※志熊家藏書写) 大島出張所僧月性顕彰会 所蔵品6(原稿用紙、ペン書きDSC08981)		
192	※題猩猩醉舞圖應河村主人囑	嘉永2	己酉	1849	33	七古							58	㉘清狂吟稿C88 「題猩猩醉舞圖、應河村主人囑」																					
193	有寄洋製蒸餅并記其所由傳以示者、感而作	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上151	40-b	59				59	㉙清狂吟稿C89 「有寄洋製蒸(〔洋製蒸〕もと〔洋蒸〕に作るも〔洋〕と〔蒸〕の間に小さな白丸を打って、その右横に小さな白丸の下に〔製〕を書き加える)餅并記其所由傳以示者、感而																					
194-1	獲蒸餅寄諸津藩、齋藤拙堂先生、聞津藩賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二絶句、亦竊致獻芹之微意耳(※其一)/※「獲蒸餅、寄諸津藩齋藤拙堂先生、聞津侯賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二絶句、亦竊致獻芹之微意耳(※其一)/※無題	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上152-1	40-b	59				60-1	㉚清狂吟稿C89 「獲蒸餅、寄諸津藩、齋藤拙堂先生、聞津侯賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二																					
194-2	獲蒸餅寄諸津藩、齋藤拙堂先生、聞津藩賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二絶句、亦竊致獻芹之微意耳(※其二)/※「獲蒸餅、寄諸津藩齋藤拙堂先生、聞津侯賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二絶句、亦竊致獻芹之微意耳(※其二)」	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上152-2	40-b	59				60-2	㉛清狂吟稿C89 「獲蒸餅、寄諸津藩、齋藤拙堂先生、聞津侯賢明、常延先生講邊防諸策、因係以二																			無題(※志熊家藏書写) 大島出張所僧月性顕彰会 所蔵品7(原稿用紙、ペン書きDSC08981)		

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、	
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番		通し 番号			
195	十四夜對月懷古	嘉永2	己酉	1849(元禄壬午十五年1702から148年目)	33	七古	遺上153	41-a	59					66	㊸清狂吟稿C91																					
196	秋夜宿山寺 課題分韻			(1849)	33	七律	遺上154	41-a	59					61	㊸清狂吟稿C90																					
197	冬日游山寺/※冬日游山寺 同前/※遊山寺			(1849)	33	五律	遺上155	41-b	60					62	㊸清狂吟稿C90 「冬日游山寺同前」																				遊山寺 關重弘・藤田千蔵『近世名家詩鈔』卷下2(※校勘未了)	
198	送秋晚香于役豐中	嘉永2	己酉	1849	33	七古毎句	遺上156	41-b	60					63	㊸清狂吟稿C90																					
199	又(※送秋晚香于役豐中)	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上157	42-a	60					64	㊸清狂吟稿C91																					
200	憶晚香	嘉永2	己酉	1849	33	七絶	遺上158	42-b	61					65	㊸清狂吟稿C91																					
201	二十日大雪、訪虎先生生、先生有詩、次韵却呈 ※(先生)の横に墨書で(山先)に改める。詩題のみ。	(嘉永2)	(己酉)	(1849)	(33)									67	㊸清狂吟稿C92 ※最後に(通計古今體七十五首)(清狂吟稿卷之二終)																					
202	春日偶成	嘉永3	庚戌	1850	34	七律	遺下001	1-a	2						1	④清狂吟稿D98 ※前に(五言古二首)の字																				
203	送觀月老師還浪華/※送龍護師還浪華/※奉送、龍護叔還浪華	嘉永3	庚戌	1850	34	七律	遺下002	1-a	2						2	④清狂吟稿D98											2	送龍護師還浪華							奉送、龍護叔還浪華(※長光寺藏書写) 大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品12(原稿用紙、ペン書き)DSC08984	
204	竹米/※竹實歌	嘉永3	庚戌	1850	34	七古	遺下003	1-b	3						3	④清狂吟稿D98											3	竹實歌								
205	春江送別圖 課題/※春江送別圖(以下三首課題)/※春江送別圖/※送別			(1850)	34	五絶	遺下004	2-a	3						4	⑤清狂吟稿D99 ※「春江送別圖 以下三首課題」							11	春江送別圖												送別 關重弘・藤田千蔵『近世名家詩鈔』卷下9(※校勘未了)
206	桐陰讀書圖(※課題)			(1850)	34	七絶	遺下005	2-a	3						5	⑤清狂吟稿D99											5	桐陰讀書圖								
207	聞子規(※課題)			(1850)	34	七絶	遺下006	2-a	3						6	⑤清狂吟稿D99													7	聞子規						
208	作詩/※酔後放歌	嘉永3	庚戌	1850	34	七古(毎二句換韻)	遺下007	2-b	4						7	⑤清狂吟稿D99							4	酔後(酔後)もと(作詩)に作るも墨書で削除の傍点を打ちその右横に改む)放歌(庚戌春有感而作この七文字墨書で削除の傍点を打つ))										酔後放歌 『清狂吟稿近作抄出』1 詩題無し 僧月性顕彰会所蔵 DSC08968		
209	夏日山居			(1850)	34	五律	遺下008	2-b	4						8	⑥清狂吟稿D100							5	夏日山居						6	夏日山居					
210	村外散歩			(1850)	34	五律	遺下009	3-a	4						9	⑥清狂吟稿D100							6	村外散歩						8	村外散歩					
211	久雨			(1850)	34	七絶	遺下010	3-a	4						10	⑥清狂吟稿D100													10	久雨						
212	梅雨			(1850)	34	七律	遺下011	3-a	4						11	⑥清狂吟稿D100													9	梅雨						
213-1	六月既望同秋晚香、藤壺仙等、赴嚴島、觀神祭、將過廣島、訪虎山先生、而不果、故後首及之、(二首其一)			(1850)	34	七絶	遺下012-1	3-b	5						12-1	⑥清狂吟稿D100 「六月既望同秋晚香、藤壺仙等、赴嚴島、觀神祭、將過廣嶋、訪虎山先生、而不果、故後首及之、(二首其																				

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引	
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D			
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番号					
213-2	六月既望同秋晩香、藤壺仙等、赴嚴島、觀神祭、將過廣島、訪虎山先生、而不果、故後首及之、(二首其二)					七絶	遺下 012-2	3-b	5									12-2	⑥清狂吟稿 D100 「六月既望同秋晩香、藤壺仙等、赴嚴島、觀神祭、將過廣嶋、訪厩山先生、而不果、故後首及之、(二首其																	
214	七月既望、秋晩香、招余飲于海濱涼棚、醉後懷虎山先生而作/※既望夜、秋晩香迎余、飲于海瀨涼棚、醉後有懷厩山先生、乃作長歌一篇	嘉永3	庚戌	1850	34	七古	遺下 013	3-b	5									13	⑥清狂吟稿 D100									11	既望夜、秋晩香迎余、飲于海瀨涼棚、醉後有懷厩山先生、乃作長							
215	送某兄弟游豐後/※送小河内兄弟游豐後			(1850)	34	七律	遺下 014	4-b	6									14	⑦清狂吟稿 D101									13	送小河内兄弟游豐後							
216	又(※送某兄弟游豐後)			(1850)	34	五古	遺下 015	5-a	6									15	⑧清狂吟稿 D102									14	又(※送小河内兄弟游豐後)							
217	聞虎山坂井先生病革、即日往訪則已易簣矣、悵然而作、實庚戌重陽日也	嘉永3	庚戌	1850	34	七律	遺下 016	5-a	6									16	⑧清狂吟稿 D102 ※はじめ「聞厩山坂井先生危篤、即日來訪則已易簣矣、悵然而作、實庚戌重陽日也」に作るも〈危篤〉を〈病革〉に、〈來〉を									8							聞虎山坂井先生病革、即日往訪則已易簣矣、悵然而作、實庚戌重陽日也『清狂吟稿』近作抄出②(※校勘未了)	
218	其日展墓于本照寺	嘉永3	庚戌	1850	34	七絶	遺下 017	5-b	7									17	⑧清狂吟稿 D102 ※はじめ「同日展墓于本照寺」に作るも〈同〉を〈其〉に																	
219	翌夜、濱野箕山、同木原慎齋、見訪余旅館、情話徹夜、賦贈箕山、	嘉永3	庚戌	1850	34	七絶	遺下 018	5-b	7									18	⑧清狂吟稿 D102 ※はじめ「明夜、濱野箕山、同木原慎齋見訪余旅館、情話徹夜、賦贈箕山」に作るも〈明〉を〈翌〉に改む																	
220-1	※無題五首(※其一)					七絶												19-1	⑨清狂吟稿 D103									7-1	無題五首(※其一)							
220-2	※無題五首(※其二)					七絶												19-2	⑨清狂吟稿 D103									7-2	無題五首(※其二)							
220-3	※無題五首(※其三)					七絶												19-3	⑨清狂吟稿 D103									7-3	無題五首(※其三)							
220-4	※無題五首(※其四)					七絶												19-4	⑨清狂吟稿 D103									7-4	無題五首(※其四)							
220-5	※無題五首(※其五)					七絶												19-5	⑨清狂吟稿 D103									7-5	無題五首(※其五)							
221	今茲嘉永庚戌、天災荐臻、諸州告凶、而我防長爲殊甚、幸藩侯賢明憂民之心至深、屢發倉廩、賑困窮、二州之民、賴之以得不饑、恭賦長歌一篇紀之、以呈内藤郡宰	嘉永3	庚戌	1850	34	雜言	遺下 019	6-a	7									20	⑨清狂吟稿 D103																『草稿』(月性顕彰会所蔵品) 今茲嘉永庚戌、天災荐臻、諸州告凶、而我防長爲殊甚、幸□(幸)の下に一字空格(藩侯賢明、憂民之心至深、屢發倉廩、賑困窮、二州之民、賴之以得不饑者實多矣。恭賦長歌一篇。紀之(之)もと(其盡畧)に作るもこの三字を抹消し右に(之■■■)とあるも、さらに(■■■)を抹消し(之)字の	
222	十月二十二日重展虎山先生墓賦此代祭文是日雨雪故結末及之	嘉永3	庚戌	1850	34	七古	遺下 020	8-b	10									21	⑫清狂吟稿 D106																	
223	同上、次韻小竹翁追悼見寄詩	嘉永3	庚戌	1850	34	七律	遺下 021	9-a	10									22	⑫清狂吟稿 D106 ※「同次韻小竹翁追悼見寄詩」の〈同〉と〈次〉の間に墨書で〈上〉字を																	

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東遊詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、												
											『清狂吟稿』 卷之一A				『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C			『鄙稿』D											
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番号														
224	同箕山、校虎山先生遺稿、寓其書齋十餘日、將歸前一夕、賦之叙別	嘉永3	庚戌	1850	34	七律	遺下022	9-b	11										23	⑬清狂吟稿D107 「同箕山、校虎山先生遺稿、寓其書齋十餘日、將歸(《歸》もと《離?散》)に作るも墨で二字に小さな○を打ち右横に改む」前一夕、																											
225	内藤郡宰、賜金我曇嶺法師、賞其教化有補於郡治、余與法兄、相知二十年、親與之至、不啻同胞傳聞其事、不堪隨喜乃賦此賀之、	嘉永3	庚戌	1850	34	七古	遺下023	9-b	11										24	⑬清狂吟稿D107 ※「内藤郡宰、賜金我曇嶺法兄、賞其教化有補於郡治、余與法兄、相二十年、親與之至、不啻兄弟傳聞其事、不堪隨喜乃賦此賀之」に作り、《相》と《二》の間に墨書で《知》を補い、《兄弟》を墨書で《同胞》に改																											
226	除夜口號	嘉永3	庚戌	1850	34	七絶	遺下024	11-a	12										25	⑭清狂吟稿D108																											
227	辛亥新春	嘉永4	辛亥	1851	35	七絶	遺下025	11-a	12										26	⑭清狂吟稿D108					10	辛亥新春																					
228	※次某生種痘詩韵					七絶													27	⑭清狂吟稿D108 「次某生種痘詩韵」																											
229-1	題畫四首(※其一)			(1851)	35	五絶	遺下026-1	11-a	12										28-1	⑮清狂吟稿D109																											
229-2	題畫四首(※其二)			(1851)	35	五絶	遺下026-2	11-a	12										28-2	⑮清狂吟稿D109																											
229-3	題畫四首(※其三)			(1851)	35	五絶	遺下026-3	11-a	12										28-3	⑮清狂吟稿D109																											
229-4	題畫四首(※其四)			(1851)	35	五絶	遺下026-4	11-b	13										28-4	⑮清狂吟稿D109																											
230	送夢窓老師、游東北諸州、巡拜宗祖靈跡、師此行、將迂路過芳野觀櫻花、故第四句及之、			(1851)	35	七律	遺下027	11-b	13										29	⑮清狂吟稿D109 ※「送夢窓老師、游東北諸、巡拜宗祖靈跡一師此行、將迂芳野觀櫻花、故第四句及之」に作り、《諸、巡》の間に墨書で《州》を補い、《一》以下は割り注で、《迂芳》の間に墨																											
231-1	得小竹先生訃信、賦哭二律(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文置之開卷第一、聞其將死、頗咯血、又嘗以雪下道人、梅月圖有栗山柴博士贊者、一幅見贐余、故二首并及之)(※其一)/※得小竹筱崎先生訃信、恭?賦追哭二律(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將易簀頗咯血、又嘗以「雪下道人梅月圖」、有栗山柴博士贊者一幅見贐余、故二首并及之)/※追哭小竹筱崎先生、二首(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將易簀頗咯血、又嘗以「雪下道人梅月圖」、有栗山柴博士贊者一幅見贐余、故二首并及之)/※辛亥五月、聞小竹筱寄先生訃、賦哭二律以代輓歌(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將沒、頗咯血、先生嘗以雪下道人、月梅圖有栗山柴博士贊者、一幅見贐余、故二首并及之)	嘉永4	辛亥	1851	35	七律	遺下028-1	11-b	13										30-1	⑮清狂吟稿D109 ※得小竹筱崎先生訃信、恭?賦追哭二律(もと《二律追哭》)に作るも《二律》と《追哭》を朱で転倒(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將死、頗咯血(《頗咯血》)をもと《頗咯血數?》)に作るも《數?》の二字墨で抹消)、又嘗以「雪下道人梅月圖」、有栗山柴博士贊者一幅、見贐余、										12	追哭小竹筱崎先生、二首(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將易簀頗咯血、又嘗以「雪下道人梅月圖」、有栗山柴博士贊者一幅見贐余、故二首并及之)																辛亥五月、聞小竹筱寄先生訃、賦哭二律以代輓歌(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將沒、頗咯血、先生嘗以雪下道人、月梅圖有栗山柴博士贊者、一幅見贐余、故二首并及之)『清狂吟稿近作抄出』3-1(※校勘未了)

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口県立山口博物館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口県立山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/『重刊』
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D		
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番号				
231-2	得小竹先生訃信、賦哭二律(※其二)/※得小竹筱崎先生訃信、恭?賦追哭二律(もと二律追哭)に作るも(二律)と(追哭)を朱で転倒)/※辛亥五月、聞小竹筱崙先生訃、賦哭二律以代輓歌(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將没、頗略血、先生嘗以雪下道人、月梅圖有栗山柴博士贊者、一幅見贈余、故二首并及之)	嘉永4	辛亥	1851	35	七律	遺下 028-2	12-a	13								30-2	⑭清狂吟稿 D109 ※「得小竹筱崎先生訃信、恭?賦追哭二律(もと二律追哭)に作るも(二律)と(追哭)を朱で転															辛亥五月、聞小竹筱崙先生訃、賦哭二律以代輓歌(余方刻『今世名家文鈔』、選先生文、置之開卷第一、聞其將没、頗略血、先生嘗以雪下道人、月梅圖有栗山柴博士贊者、一幅見贈余、故二首并及之)『清狂吟稿』近作抄出』3-2(※校勘未		
232	追懷小竹虎山二先生、兼寄懷拙堂簗浦二先生、時余校四家文鈔/※辛亥秋(辛亥秋)もと脱するも朱で補うかに見えるが)追懷小竹虎山二先生、兼寄懷拙堂簗浦二先生、時余校四家文鈔			(1851)	35	七古	遺下 029	12-a	13								31	⑯清狂吟稿 D110 ※もと「追懷小竹庸山二先生、兼奉寄懷拙堂簗浦二先生、時余校四先生文鈔」に作るも、(奉寄)を墨書で(懷)に改めているような、イキのような。(先生)を(家)に改む					13	辛亥秋(辛亥秋)もと脱するも朱で補うかに見えるが)追懷小竹虎山二先生、兼寄懷拙堂簗浦二先生、時余校四家文鈔											
233-1	※病中吟五首(※其一)	嘉永4		1851	35	五律											34-1	⑰清狂吟稿 D111																	
233-2	※病中吟五首(※其二)/※病中吟五首(節二)(※其二)/※病中作五首(節二)(※其二)	嘉永4		1851	35	五律											34-2	⑰清狂吟稿 D111					14-1	病中吟五首 (節二)(※其二)									病中作五首(節二)(※其二)『清狂吟稿』近作抄出』4-1(※校勘未了)		
233-3	病中吟五首(※其三)/※病中吟五首(節二)(※其三)/※病中作五首(節二)(※其三)	嘉永4		1851	35	五律	遺下 030-1	13-a	14								34-3	⑰清狂吟稿 D111					14-2	病中吟五首 (節二)(※其三)									病中作五首(節二)(※其三)『清狂吟稿』近作抄出』4-2(※校勘未了)		
233-4	病中吟五首(※其四)	嘉永4		1851	35	五律	遺下 030-2	13-a	14								34-4	⑰清狂吟稿 D111																	
233-5	※病中吟五首(※其五)	嘉永4		1851	35	五律											34-5	⑰清狂吟稿 D111															病中吟(※世良家藏書写)大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品4(原稿用紙、ペン書きDSC08981)		
234	即事			(1851)	35	七絶	遺下 031	13-a	14								32	⑯清狂吟稿 D110																	
235	得夢窓師新渴書					七絶											33	⑯清狂吟稿 D110																	
236	内藤郡宰、寄書問病、并見惠萬歳胎、賦謝			(1851)	35	七絶	遺下 032	13-b	15								35	⑰清狂吟稿 D111																	
237	示雛僧			(1851)	35	七絶	遺下 033	13-b	15								36	⑰清狂吟稿 D111																	
238	卧病中殘暑甚酷、有懷夢窓老師、	嘉永4		1851	35	七古 (換韻)	遺下 034	13-b	15								37	⑱清狂吟稿 D112																	
239	中秋/※中秋臥病			(1851)	35	七律	遺下 035	14-a	15								38	⑱清狂吟稿 D112															中秋臥病 山口県立山口博物館所蔵 DSC9025(月性顕彰会所蔵品複写DSC08857) 中秋臥病(※桑原昌資氏藏書写) 大畠出張所僧月性顕彰会		
240	※九月六日庸山先生小祥忌、枕上有作	嘉永4	辛亥	1851	35	五古											39	⑲清狂吟稿 D112																	
241	並頭蓮歌(爲輪齋林山人囑)	嘉永4	辛亥	1851	35	七古	遺下 036	14-b	16								40	⑲清狂吟稿 D113																	
242	※重陽書懷	嘉永4	辛亥	1851	35	七律											41	⑲清狂吟稿 D113 「重陽書懷」																	
243	※十三夜得懷齋木原國手書、次其見寄示中秋詩韵(時満身水腫、醫戒節飲食)/※十三夜得懷齋國手書次其見示中秋詩韵	嘉永4	辛亥	1851	35	七律											42	⑳清狂吟稿 D114 「十三夜得懷齋木原國手書、次其見寄示中秋詩韵(時満身水腫、醫戒節飲食)」															十三夜得懷齋國手書次其見示中秋詩韵(※桑原昌資氏藏書写)大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品3(原稿用紙、ペン書きDSC08981)		
244	旭莊廣瀬先生、東上路次、繫舟于竈關、寓長尾生家、馳書見報、即性會焉、			(1851)	35	七律	遺下 037	15-a	16								43	㉑清狂吟稿 D114																	
245	※長尾生招善舞且唱淨瑠璃曲者鶴兒行酒、酔後戲賦贈					七絶											44	㉑清狂吟稿 D114 「長尾生招善舞且唱淨瑠璃曲者鶴兒行酒、酔後戲賦																	
246	除夜	嘉永4	辛亥	1851	35	五律	遺下 038	15-b	17								45	㉑清狂吟稿 D114																	

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令		『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、
												『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D		
							No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号				
247	籠鶴	嘉永5	壬子	1852	36	五古	遺下039	15-b	17						1	2A(清狂吟稿B4)※頭に「壬子」の二字あり							15	籠鶴											籠鶴 『入江九一文書39清狂吟稿』1(山口文書館所蔵)(※校勘未了)	
248	題泥龜圖			(1852)	36	七絶	遺下040	15-b	17						2	2A(清狂吟稿B4)																		題泥龜圖 『入江九一文書39清狂吟稿』2(山口文書館所蔵)(※校勘未了)		
249	題巖邑十勝後			(1852)	36	七絶	遺下041	16-a	17						3	2A(清狂吟稿B4)																		題巖邑十勝後 『入江九一文書39清狂吟稿』3(山口文書館所蔵)(※校勘未了)		
250	檢古紙、得土井士強戲畫余肖像/※檢?古紙、得土井士強戲画余肖像/※壬子春日、檢?古紙得土井士強戲畫、余肖像、戲畫余肖像/※壬子春日檢?古紙、得余昔年肖像戲題	嘉永5	壬子	1852	36	五古	遺下042	16-a	17						4	2B(清狂吟稿B5) 「檢?古紙、得土井士強戲画余肖像」																		壬子春日、檢?古紙得土井士強戲畫、余肖像、戲畫余肖像『清狂吟稿近作抄出』5-1(※校勘未了) 壬子春日檢?古紙、得余昔年肖像戲題 關重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下1(※校勘未了)		
251	又(※檢古紙、得土井士強戲畫余肖像)	嘉永5	壬子	1852	36	五古	遺下043	16-b	18						5	2B(清狂吟稿B5)																		壬子春日、檢?古紙得土井士強戲畫、余肖像、戲畫余肖像『清狂吟稿近作抄出』5-2(※校勘未了)		
252-1	水母(六首 其一)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-1	16-b	18						6-1	3A(清狂吟稿B5)																				
252-2	水母(六首 其二)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-2	17-a	18						6-2	3A(清狂吟稿B5)																				
252-3	水母(六首 其三)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-3	17-a	18						6-3	3A(清狂吟稿B5)																				
252-4	水母(六首 其四)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-4	17-a	18						6-4	3B(清狂吟稿B6)																				
252-5	水母(六首 其五)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-5	17-a	18						6-5	3B(清狂吟稿B6)																				
252-6	水母(六首 其六)	嘉永5		1852	36	五古	遺下044-6	17-a	18						6-6	3B(清狂吟稿B6)																				
253	七夕周盈眞人見訪、賦贈			(1852)	36	五古	遺下045	17-b	19						7	3B(清狂吟稿B6)																				
254-1	三隅山莊十二勝詩、為故準奥番頭、村田松齋翁囑/※三隅山莊十二勝詩、為前參政村田松齋翁囑 圓通寺曉鐘(※其一)	嘉永5		(1852)	36	七絶	遺下046-1	17-b	19						8	4A(清狂吟稿B6) 「三隅山莊十二勝詩、為故準奥番頭(故準奥番頭)もと(前參政)に作るも右横に朱で改む」村田						16-1	三隅山莊十二勝詩、為前參政村田松齋翁囑(この下に朱で(節録)とあり)													
254-2	※松嶋春曉(※其二)					七絶									9	4A(清狂吟稿B6)																				
254-3	嵩山歸雁(※其三)			(1852)	36	七絶	遺下046-2	18-a	19						10	4A(清狂吟稿B6)						16-2	嵩山歸雁(※其三)													
254-4	東廬山翠嵐(※其四)			(1852)	36	七絶	遺下046-3	18-a	19						11	4B(清狂吟稿B7)						16-3	東廬山翠嵐(※其四)													
254-5	妙見山晚雲(※其五)			(1852)	36	七絶	遺下046-4	18-a	19						12	4B(清狂吟稿B7)						16-4	妙見山晚雲(※其五)													
254-6	※豊原夜雨(※其六)					七絶									13	4B(清狂吟稿B7)																				
254-7	兒島霜葉(※其七)			(1852)	36	七絶	遺下046-5	18-b	20						14	5A(清狂吟稿B7)																				
254-8	紫津彩霞(※其八)			(1852)	36	七絶	遺下046-6	18-b	20						15	5A(清狂吟稿B7)																				
254-9	※澤江明月(※其九)					七絶									16	5A(清狂吟稿B7)																				
254-10	通浦寒涛(※其十)	嘉永5		1852	36	七絶	遺下046-7	18-b	20						17	5B(清狂吟稿B8)						16-5	通浦寒涛(※其十)													
254-11	※武根洞晴雪(※其十一)					七絶									18	5B(清狂吟稿B8)						16-6	※武根洞晴雪(※其十一)													
254-12	内海漁火(※其十二)			(1852)	36	七絶	遺下046-8	18-b	20						19	5B(清狂吟稿B8)																				
255	※九月六日越廣嶋、會厩山先生大祥忌祭、次聖山翁見示詩韵	嘉永5	壬子	1852	36	五律									20	5B(清狂吟稿B8) 「九月六日越廣嶋、會厩山先生大祥忌祭、次聖山翁見示詩韵」																				

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出』(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/関帝廟、
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D						
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号						
256	※同夜堀教授招飲、同愼齋國手趣之、賦呈主人及席上詩彦	嘉永5	壬子	1852	36	五律								21	6A(清狂吟稿B8) 「同夜堀教授招飲、同愼齋國手趣之、賦呈主人及席上詩彦」																				
257	※同愼齋國手及眞鍋國枝立野諸子、飲于亦佳樓分韵得豪	嘉永5	壬子	1852	36	五律								22	6A(清狂吟稿B8) 「同愼齋國手及眞鍋國枝立野諸子、飲于亦佳樓分韵得豪」																				
258	大漁石詩并引(久賀浦里正、河村某、簞一卷石、來示曰、此縣吏、石田二鳳君、所蔵大漁石也、君性年爲吏於北郡、時有一巨石、飛出于神田海、數十歩而隕者、其歳也、神田諸村、漁而大獲、人皆以爲石之瑞、遂呼曰大漁石、君親目之、鎚取一片、載歸珍藏焉、去歳、以我久賀少漁獵、君乃蕭來、使漁人奉以祠祝焉、果有驗矣、今將完璧也、欲得師之一言以鳴謝、願詩之以賜、余受而視之、質堅色白、擊之、鏗然有聲、蓋奇石也、二鳳爲人沈實、讀書識理、頗有清白吏之風、石已奇而人亦不凡矣、不可無詩也、賦此與之			(1852)	36	七古	遺下047	19-a	20					23	6B(清狂吟稿B9)																				
259	※雪平鐘(爲三井某囑)					五古								24	7B(清狂吟稿B10)																				
260	立春夜、周盈眞人見訪(二十五日)/※立春夜、周盈眞人見訪/※立春夜、周盈眞人見訪、喜而賦			(1852)	36	五古	遺下048	20-a	21					25	8A(清狂吟稿B10)							17	立春夜、周盈眞人見訪												立春夜、周盈眞人見訪、喜而賦『清狂吟稿近作抄出』6(※校勘未了)
261	歳杪、得簫海土屋生書、聞其從學簡堂羽倉君、賦此寄之、兼呈羽君	嘉永5	壬子	(1852)	36	七古	遺下049	20-b	22					26	8A(清狂吟稿B10)																			歳杪得簫海土屋生書聞其從學簡堂羽倉君賦此寄之兼呈羽君、『入江九一文書39清狂吟稿』4(山口文書館所蔵)(※校勘未了)	
262	歳除口號	嘉永5	壬子	(1852)	36	七絶	遺下050	22-a	23					27	9B(清狂吟稿B12)																				
263	新春卽事	嘉永6	癸丑	1853	37	七絶	遺下051	22-a	23					28	10A(清狂吟稿B12) ※前に〈癸丑〉の二字有り																				
264	上元、游阿彌陀寺、觀其宗祖圓光大師眞筆六字名號、并名體不二畫幅/※上元游阿彌陀寺、觀其宗祖圓光大師眞筆六字名號、并名體不二画幅	嘉永6	癸丑	1853	37	七古	遺下052	22-a	23					29	10A(清狂吟稿B12) 「上元游阿彌陀寺、觀其宗祖圓光大師眞筆六字名號、并名體不二画幅」																				
265	日前途上口占	嘉永6	癸丑	1853	37	七絶	遺下053	23-a	24					30	10B(清狂吟稿B13)																				
266	送玩古藤生			(1853)	37	七古	遺下054	23-a	24					31	11A(清狂吟稿B13)																				
267	未開牡丹(對潮樓課題)/※「未開牡丹(對潮樓集課題)」	嘉永6	癸丑	1853	37	五古	遺下055	23-b	25					32	11A(清狂吟稿B13) 「未開牡丹(對潮樓集課題)」																				
268	今茲、嘉永六年、歳在癸丑、聞簡堂羽君、上巳會客、修蘭亭故事、還有此寄(應囑)/ ※今茲嘉永六年、歳在癸丑春、聞簡堂羽君、上巳會客、修蘭亭故事、還有此寄	嘉永6	癸丑	1853	37	七古	遺下056	23-b	25					33	11B(清狂吟稿B14) 「今茲嘉永六年、歳在癸丑、聞簡堂羽君上巳會客、修蘭亭故事、還有此寄(應囑)」							18	今茲嘉永六年、歳在癸丑春(春)もと脱するも〈丑〉と〈聞〉の間に朱で挿入線を容れて朱で補う、聞簡堂羽君、上巳會客、修蘭亭										今茲嘉永六年歳在癸丑聞簡堂羽君上巳會客修蘭亭故事還有此寄(應囑)『入江九一文書39清狂吟稿』5(山口文書館所蔵)(※校勘未了)		
269	※七月十三夜、柳港候潮、偶見同舟人扇頭題七月十三夜詩、次其韵而賦													34	12A(清狂吟稿B15) 「七月十三夜、柳港候潮、偶見同舟人扇頭																				

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出/〔長府博物館所蔵〕/扇面詩〔長府博物館所蔵〕/『東游詩稿』〔長府博物館所蔵〕/『入江九一文書39清狂吟稿』〔山口文書館所蔵〕/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』〔山口文書館所蔵〕/山口県立山口博物館所蔵/題重訂、	
						『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D			
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番		通し番号		通し番		通し番		通し番号			
270	偶作			(1853)	37	七律	遺下057	25-a	26						35	13B(清狂吟稿B16)																遇作『入江九一文書39清狂吟稿』6(山口文書館所蔵)(※校勘未了)				
271	今茲六月、墨夷軍艦四隻、來泊浦賀、幕府命諸藩出戌兵、以防禦近都海岸、相傳、當時我藩大森之營、武備殊具、乃賦此詩、贈前參政村田松齋翁/※「今茲六月、墨夷軍艦四隻、來泊浦賀、幕府命諸藩出戌兵、以防禦近都海岸、相傳當時我藩大森之營、武備殊具、乃賦此詩、贈前參政村田松齋翁(應(〈應〉の下に〈囑〉の字あるも墨で抹消))」	嘉永6	癸丑	1853	37	七古	遺下058	25-b	27						36	13B(清狂吟稿B16) 「今茲六月、墨夷軍艦四隻、來泊浦賀、幕府命諸藩出戌兵、以防禦近都海岸、相傳當時我藩大森之營、武備殊具、乃賦此詩、贈前參政村田松齋翁(應(〈應〉の下に〈囑〉の字あ																今茲六月墨夷軍艦四隻來泊浦賀幕府命諸藩出戌兵以防禦近都海岸相傳當時我藩大森之營武備殊具乃賦此詩贈前參政村田松齋翁(應囑)『入江九一文書39清狂吟稿』7(山口文書館所蔵)				
272	簡村田翁	嘉永6	癸丑	1853	37	五古	遺下059	27-a	28						37	15B(清狂吟稿B18)																				
273	觀梅花有感/※甲寅春觀梅花有感	嘉永7(11.27安政元)	甲寅	1854	38	七絶	遺下060	27-b	29						38	16A(清狂吟稿B18) ※前に〈甲寅〉の二字有り																	甲寅春觀梅花有感『清狂吟稿近作抄出』7(※校勘未了) 觀梅花有感『入江九一文書39清狂吟			
274	輓久下玄機(時鄂船留泊崎澳、墨艦亦再來浦港、藩府命玄機、策海防、其稿具而逝矣)/※輓久下玄機(時鄂船留泊崎澳、墨艦亦再來浦港、藩府命玄機、策海防、其稿具而逝矣)/※輓久下玄機(時鄂羅船留泊崎澳墨夷戰艦亦再來浦港藩府命玄機策海防其稿具而逝矣)	嘉永7(11.27安政元)	甲寅	1854	38	七律	遺下061	28-a	29						39	16A(清狂吟稿B18) 「輓久下玄機(時鄂(もと〈鄂〉の下に〈羅軍〉)二字あるも墨書で斜線で削除)船留泊崎澳、墨(もと〈墨〉の下に〈夷戰〉)二字あるも墨書で丸を打ち削除)艦亦再來浦港、藩府命玄機、策海防、其稿																輓久下玄機(時鄂羅船留泊崎澳墨夷戰艦亦再來浦港藩府命玄機策海防其稿具而逝矣)『入江九一文書39清狂吟稿』9(山口文書館所蔵)(※校勘未了)				
275	挽舟師重助			(1854)	38	七絶	遺下062	28-a	29						40	16B(清狂吟稿B19)																				
276	題莊周倚湖石夢蝶圖			(1854)	38	五古	遺下063	28-a	29						41	16B(清狂吟稿B19)																				
277-1	萩城過玄機故宅、悵然而作(※二首)其一(昨年、余之再游此地、玄機招嚶鳴社諸子、北條、中村、能美等、共飲大劇、滿城傳以爲盛會、未幾、去年八月、母氏病歿、玄機以今年二月就木、數日之後、父良迪亦遠逝焉、而北條、中村諸子、亦皆遠戍浦賀)	嘉永7(11.27安政元)	甲寅	1854	38	七絶	遺下064-1	28-b	30						42-1	17A(清狂吟稿B19) 「萩城過玄機故宅、悵然而作(※二首)其一(再昨年、余之游此地、玄機父母俱存、遇余甚厚、一日玄機招嚶鳴社諸子、北條、中村、能美等、共飲、歌呼大劇、滿城傳以爲盛會。未幾、去年八((八)もと(某)に作るも墨点で抹消し右横に改む)月、母氏病没、玄機以今年二((二)もと(正)に作るも墨点で抹消し右横に改む)月就木、數日之後、父良迪((迪)もと(的)に作るも墨点で抹消し右横に改む)																				

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令		『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵版/清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引、秋良氏率來壯士數十人來演武使余縦観賦謝(※三首其三)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
												『清狂吟稿』 卷之一A				『清狂吟稿』 卷之二C				『清狂吟稿』 卷之二B				『清狂吟稿』D				『未定清狂吟稿』卷之三				『未定小稿』					『天保十三年壬寅草稿』				『鄙稿』A				『鄙稿』B				『庚戌未定稿』				『鄙稿』C				『鄙稿』D																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
							No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番		通し番号		通し番		通し番			通し番号		通し番号		通し番号		通し番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
285-3	秋良氏聞夷艦入攝海、率來壯士三十餘人、演武技、使余縦観、以洩憤懣賦謝(※三首其三)/※秋良氏率來壯士數十人來演武使余縦観賦謝(※三首其三)	嘉永7(11.27安政元)	甲寅	1854	38	七絶	遺下071-3	34-a	35							50-3	22B(清狂吟稿B25)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	</

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令		『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出』(長府博物館所蔵)/『扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重弘、
												『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D		
							No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番		通し 番号		
297	上人松(松、在阿月圓覺寺、應寺主某囑而作)		乙卯	(1855)	39	七古	遺下 082	36-b	38	5	清狂二表					62	27A(清狂吟稿 B29)																			
298	執政浦大夫、父子延見、賦此、呈下執事/ ※執政浦太夫父子延見、賦此呈下執事/ ※執政浦氏父子延見、退後賦此呈下執事	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下 083	37-a	38	6	清狂二裏 「執政浦太夫父 子延見、賦此 呈下執事」					63	27B(清狂吟稿 B30) 「執政浦太夫 父子延見、賦 此呈下執事」																		執政浦氏父子延見、退後 賦此呈下執事 『清狂吟稿近作抄出』12(校勘未了)	
299	同中村秋良二子、訪松齋翁、翁招小川中川八谷北條諸君、俱飲、賦呈主人翁(園中、種鎌倉鶴岡神祠松一株、于時、櫻花亦盛開、故後聯及之)		乙卯	(1855)	39	七律	遺下 084	38-a	39	7	清狂三裏					64	28B(清狂吟稿 B31) 「同中村秋良二子、訪松齋翁、翁(翁)もと脱するも(翁)と(招)の右横の間に墨書で書き足す」 招小川中川八谷北條諸君俱飲、賦呈主人翁(園中、種鎌倉鶴岡神祠松一株、于時櫻花亦盛開、故																			
300	上巳黄波渡、客中作(于時、兼佐世大夫内囑、說法於邑之海岸寺)/※上巳、黄波渡客中作(于時、兼佐世太夫内囑、說法於邑之海岸寺)		乙卯	(1855)	39	七律	遺下 085	38-b	40	8	清狂四表 「上巳黄波渡客中作(于時、兼佐世太夫内囑、說法於邑之海岸寺)」					65	28B(清狂吟稿 B31) 「上巳、黄波渡客中作(于時、兼佐世太夫内囑、說法於邑之海岸寺)」																			
301	佐世大夫延見、鳳池硯加金賜之、賦呈/※佐世太夫延見、鳳池硯加金賜之、賦呈/※佐世氏延見、賜鳳池硯、賦此以謝		乙卯	(1855)	39	七律	遺下 086	38-b	40	9	清狂四表					66	29A(清狂吟稿 B31) 「佐世太夫延見、鳳池硯加金賜之、賦此以謝」																		佐世氏延見、賜鳳池硯、賦此以謝 『清狂吟稿近作抄出』13(校勘未了)	
302	口羽徳祐及赤川兄弟、蒙命游學關東、迂路見訪草堂、中村齋藤二氏、及口羽家臣坂上某、亦從行焉、留宿三日、臨別賦贈	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下 087	39-a	40	10	清狂四表					67	29A(清狂吟稿 B31)																			
303	送赤川忠亮游水府、從學會澤翁/※送赤川忠亮游水府從學相澤翁	安政2	乙卯	1855	39	七絶	遺下 088	39-b	41	11	清狂五表					68	30A(清狂吟稿 B32) 「送赤川忠亮游水府從學相澤翁」																			
304	再赴萩府、過夏木原、得一絶/※再趣萩府途中作			(1855)	39	七絶	遺下 089	40-a	41	12	清狂五表					69	30A(清狂吟稿 B32) 「再趣萩府途中作」																			
305	※瀬戸崎(崎亦属大津郡。應郡宰宍戸氏請、說法于淨願寺)					七律				13	清狂五裏					70	30A(清狂吟稿 B32)																			
306	贈二十一回猛士、在野山獄中(毎句押韻)/贈二十一回猛士在野山獄中			(1855)	39	七古	遺下 090	40-a	41	14	清狂五裏					71	30B(清狂吟稿 B33) 「/贈二十一回猛士在野山獄中」																			
307	贈杉梅太郎			(1855)	39	七古	遺下 091	41-b	43	15	清狂六表					72	32A(清狂吟稿 B34)																			
308	※送北條小湫趣任於大坂邸監	安政2	乙卯	1855	39	七古										73	32B(清狂吟稿 B35) 「送北條小湫趣任於大坂邸監」																			
309	輓澁木生	安政2	乙卯	1855	39	七絶	遺下 092	42-a	43	16	清狂八表					74	33A(清狂吟稿 B35)																			

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/關重弘、
						『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D		
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		
310	輓松齋村田翁(余以四月廿二日、訪翁於澤江山莊、告別而皈、未幾、君上特命、使翁力病以起、再參國政、許以乘輜登城、且杖於殿上、蓋異數也、兼命之明日、病發終不起矣、訃至、慟哭悵然成詠、實易實後七日、乙卯六月朔也)/※輓松齋村田翁(余以四月廿二日、訪翁於沢江山莊、告別而帰、未幾、君上特命、候?翁力病以起、再參國政、許以乘輜登城、且杖((杖)もと脱すも(且)と(於)の間の右横に墨書で補う)於殿上、蓋異數也、兼命之明日、病發終不起矣、訃至慟哭、悵然成咏、実易實後七日、乙卯六月朔也)	安政2	乙卯	1855	39	七律	遺下93	42-b	44	17	清狂八表					75	33A(清狂吟稿B35) 「輓松齋村田翁(余以四月廿二日、訪翁於沢江山莊、告別而帰、未幾、君上特命、候?翁力病以起、再參國政、許以乘輜登城、且杖((杖)もと脱すも(且)と(於)の間の右横に墨書で補う)於殿上、蓋異數也、兼命之明日、病發終不起矣、訃至慟哭、悵然成咏、実易實後																		
311	又赴萩府(此行、兼益田彈正大夫内囑、赴其采邑須佐)/※又趣赴萩府(此行、兼(兼)もと脱するも(行)と(益)の間の右横に墨書で補う)益田彈正大夫内囑、趣其采邑須佐)	安政2		(1855)	39	七絶	遺下94	42-b	44	18	清狂八裏					76	33B(清狂吟稿B36) 「又趣赴萩府(此行、兼(兼)もと脱するも(行)と(益)の間の右横に墨書で補う)益田彈正大夫内囑、趣其采邑須佐)」																		
312	雨中入須佐			(1855)	39	七絶	遺下95	43-a	44	19	清狂八裏					77	33B(清狂吟稿B36)																		
313	※涵翠園(為須佐邑宰益田順卿囑)					五古				19	清狂九表					78	34A(清狂吟稿B36)																		
314	※鶴居園(為萩野翁囑)					五古				20	清狂九表					79	34A(清狂吟稿B36)																		
315	重陽後二日、登須佐神山、賦奉呈邑主彈正益田大夫/※重陽後二日、登須佐(佐)もと脱するも(須)と(神)の間の右横に墨書で補う)神山、賦奉呈邑主彈正益田太夫	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下96	43-a	44	21	清狂九裏					80	34B(清狂吟稿B37) 「重陽後二日、登須佐((佐)もと脱するも(須)と(神)の間の右横に墨書で補う)神山、賦奉呈邑主彈正益田太夫」																		
316	短刀歌、呈彈正益田大夫/※短刀歌/※短刀歌、奉呈彈正益田太夫	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下97	44-a	45	22	清狂十一表					81	35B(清狂吟稿B38) ※「短刀歌」に作る																	短刀歌、奉呈彈正益田太夫 『清狂吟稿近作抄出』14(校勘未了)	
317	紙鳶			(1855)	39	七絶	遺下98	44-b	46	23	清狂十一裏					82	36A(清狂吟稿B38)																		
318	地震行(或所著震災記曰、大城譙門及樓櫓崩、半藏四谷諸門大破、其他樓櫓雉堞、悉剥落、濔堦石=(石+珍の旁)、崩者無慮數所、又曰、所在火起、凡五十八所、又曰、死亡者不下三十萬人、又曰、深川及小川坊、夜已深有物、啾々如泣如訴、至曉不絶、人以為冤鬼哭聲、吉原之上、多見陰燐、蓋亦冤枉之氣所結、故詩亦及之)/※地震行(或所著震災記曰、大城譙門、及樓櫓崩、半藏四谷諸門大破、其他樓櫓雉堞悉剥落、濔堦石=(石+珍の旁)、崩者無慮數所、又曰、所在火起、凡五十八所、又曰、死亡者不下三十萬人、又曰、深川及小川坊、夜既深、有物啾々、如泣如訴、至曉不絶、人以為冤鬼哭聲、吉原之上、多見陰燐、蓋亦冤枉之氣所結、故詩亦及之)	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下99	45-a	46	24	清狂十一裏					83	36B(清狂吟稿B39) 「地震行(或所著震災記曰、大城譙門、及樓櫓崩、半藏四谷諸門大破、其他樓櫓雉堞悉剥落、濔堦石=(石+珍の旁)、崩者無慮數所、又曰、所在火起、凡五十八所、又曰、死亡者不下三十萬人、又曰、深川及小川坊、夜既深、有物啾々、如泣如訴、至曉不絶、人以為冤鬼哭聲、吉原之上、多見陰燐、蓋亦冤枉之氣所結、故詩亦及之)																		
319	無題			(1855)	39	七絶	遺下100	46-a	47	25	清狂十二裏					84	37B(清狂吟稿B40)																		

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引	
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D							
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号					
320	送豊僧黙霖之平門					七古	遺下 101	46-a	47	26	清狂十三表					85	37B(清狂吟稿 B40)																			
321	※題雜図為秋良政一					七絶				27	清狂十四表					86	38B(清狂吟稿 B41) 「題雜図為秋 良政一」																			
322	※題林隠士画為松村氏(松村氏者赤根婦人)					七絶				28	清狂十四表					87	38B(清狂吟稿 B41) 「題林隠士画 為松村氏(松 村氏者赤根婦 人)」																			
323	偶成															88	38B(清狂吟稿 B41) ※詩題のみ																			
324	歳晏行/※歳晏行次老杜詩韵	安政2	乙卯	1855	39	七古	遺下 102	47-a	48	29	清狂十四表 ※最後の行に「 丙辰(※安政三 年1856)八月九 日 藤寅妄評」					89	38B(清狂吟稿 B41) ※「歳晏行次 老杜詩韵」に 作る																			
325	丁巳四月將赴南紀	安政4	丁巳	1857	41	七絶	遺下 103	47-a	48																											
326	蒙恩命寓東山別墅					七絶	遺下 104	47-b	49																											
327	出東山/※將赴南紀有所建白?出東山寓居(祇園歌妓一千人。露杏・風?桃、各媚春揚有以之殊品柳梅花相貌雪精神水楼来奏?)					七絶	遺下 105	47-b	49																										將赴南紀有所建白?出東山寓居(祇園歌妓一千人。露杏・風?桃、各媚春揚有以之殊品柳梅花相貌雪精神水楼来奏?) 山口放送所蔵/僧月性顕彰会所蔵(複写)DSC08967	
328	自南紀還京、賦奉寄執政久野丹州、及司農水野氏、并小浦白井茂田諸君、	安政4	丁巳	1857	41	七古	遺下 106	47-b	49																											
329	※積小書肆邂逅佐々原					七古																			1	積小書肆邂逅佐々原 (佐々原)もと (渡邊)墨で縦に線を 引き右横に 墨書で改む) 神童戯作長										
330	※庚戌元旦、日有食之、感而成詠	嘉永3	庚戌	1850	34	七古																														
331	※太極上杯歌、戲贈濱野箕山					七古																														僧月性顕彰会所蔵品/漢詩断簡DSC09003
332	※梅					七絶																														
333-1	※肖像二首(※其一 詩題のみ)																																			
333-2	※肖像二首(※其二 詩題のみ)																																			
334	※絶吟					七絶																											4	絶吟		

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西曆	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)										月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出』(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引、			
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C			『鄙稿』D		
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番号					
335	※鐵槍歌呈秋良賢契(今茲十月中浣、應請說法于阿月圓寺。亦傍論外冠邪教之害、以聞邑人。其意專在振興士氣、維持民心焉。邑宰秋良氏以為有裨益於有政、與諸壯士謀、賜鐵槍一條、以見謝、乃賦此封之)/※鍊槍歌并引(甲寅十月、說法於執政浦氏采邑某寺、明辯外冠邪教之害、以諭邑人。其意專在振興士氣、維持民心。邑宰秋良氏謂裨益於時務、與諸壯士謀、贈鐵槍一柄、以表其感。余又自壯之、乃作鍊槍歌)	安政元年	甲寅	1854	38	七古																													月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出』(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題重引、 月中浣、應請說法于阿月圓寺。亦傍論外冠邪教之害、以聞邑人。其意專在振興士氣、維持民心焉。邑宰□(一字空格)秋良氏以為有裨益於有政、與諸壯士謀、賜鐵槍一條、以見謝、乃賦此封之)僧月性顕彰会所蔵3(複写) DSC08856 鍊槍歌并引(甲寅十月、說法於執政浦氏采邑某寺、明辯外冠邪教之害、以諭邑人。其意專在振興士氣、維持民心。邑宰秋良氏謂裨益於時務、與諸壯士謀、贈鐵槍一柄、以表其感。余又自壯之、乃作鍊槍歌)『清狂吟稿』近作抄出』10(※校勘未了) 鐵槍歌呈秋良賢契(今茲十月中浣、應請說法于阿月圓寺。亦傍論外冠邪教之害、以聞邑人。其意專在振興士氣維持民心焉。邑宰□(一字空格)秋良氏、以為有裨益於有政、與諸壯士謀、賜鐵槍一條、以見謝、乃賦此封之)	
336	※立春後五日、秋良賢契見惠富士山絶頂之石一顆、并其園中梅花數枝、及鮮鯨肉一斤、炙鮓魚十串、賦此鳴謝	安政2?	乙卯?	1855?	39?	雜言																													立春後五日、□(一字空格)秋良賢契、見惠富士山絶頂之石一顆、并其園中梅花數枝、及鮮鯨肉一斤、炙鮓(魚+府)魚十串、賦此鳴謝 僧月性顕彰会所蔵3(複写) DSC08856 立春後五日、□(一字空格)秋良賢契見惠富士山絶頂之石一顆、并其園中梅花數枝、及鮮鯨肉一斤、炙鮓(魚+府)魚十串、賦此鳴謝 『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』3(山口文書館所蔵) 立春後五日、□(一字空格)秋良賢契、見惠富士山絶頂之石一顆、并其園中梅花數枝、及鮮鯨肉一斤、炙鮓(魚+府)魚十串、賦此鳴謝	
337	※訪村田松齋翁於澤江山莊					五律																														訪村田松齋翁於澤江山莊『清狂吟稿』近作抄出』8 訪村田松齋翁於澤江山莊關重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下3(※校勘未了)
338	※丙辰秋、蒙命東上、八月十日舟發遠崎	安政3	丙辰	1856	40	五律																													丙辰秋(秋)もと(八月)に作るも墨で点を打ち(辰)下と(蒙)上から墨で右横に線を引き改む)、蒙命東上、八月十日((八月十日)もと(十一月)に作るも墨で点を打ち(上)下と(舟)上から墨で右横に線を引き改む)舟發遠崎『東游詩稿』1(長府博物館所蔵)	
339	※夜泊巖嶋	安政4	丙辰	1857	40	七絶																													夜泊巖嶋『東游詩稿』2(長府博物館所蔵)	
340	※十一日、廣嶋港口遇雷雨、紀所見	安政4	丙辰	1857	40	雜言																													十一日、廣嶋港口遇雷雨、紀所見『東游詩稿』3(長府博物館所蔵)	
341	※過廣嶋訪木原愼齋	安政4	丙辰	1857	40	七絶																													過廣嶋訪木原愼齋『東游詩稿』4(長府博物館所蔵)	
342	※夜自鞆津至福山舟中	安政4	丙辰	1857	40	七絶																													夜自鞆津至福山舟中『東游詩稿』5(長府博物館所蔵)	
343	※中秋同江木君赴城西草戸村里正招	安政4	丙辰	1857	40	五律																													中秋同江木君赴城西草戸村里正招『東游詩稿』6(長府博物館所蔵)	

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)						虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿』近作抄出(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/関重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下7(※校勘未筆	
						『清狂吟稿』 卷之一A			『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D					
						No.	葉数	pdf	通し番号		通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号		通し番号			
344	※八月晦、邀拙堂先生、及松陰・旭莊・竹陰・秋里諸儒、飲于免角樓、舞妓阿清等、來行酒	安政4	丙辰	1857	40	七古																											八月晦、邀拙堂先生、及松陰・旭莊・竹陰・秋里諸儒、飲于免角樓、舞妓阿清等、來行酒 『東游詩稿』6(長府博物館所蔵)	
345	※九月十二日、同邸監穴戸翁、飲于三樹酒樓、座有歌妓小絹、戲賦	安政4	丙辰	1857	40	七絶																											九月十二日、同邸監穴戸翁、飲于三樹酒(酒)もと(月)に作るも消去の点を墨で打ち(樹)下と(樓)上から墨で線を引いて右横に墨で(酒)を補う)樓、座有歌妓小絹、戲賦 『東游詩稿』7(長府博物館所蔵)	
346	※十七日、虞淵師見訪於余六條旅寓。適丹後笛浦野田君亦自坂埴路見枉。酒間君談?幕吏某翁出處、■論明季呂晚村順?逆、賦此紀之	安政4	丙辰	1857	40	七古																											十七日、虞淵師見訪於((於)もと脱するも(訪)と(余)の間に墨で小さな○を打ち、その右横にも小さな○を打ち(於)を補う)余六條旅寓。適丹後笛浦野田君((笛浦野田君)もと(野田笛浦?)に作るも消去の点を墨で打ち(後)下と(亦)上から墨で線を引いて右横に墨で補う)亦自坂埴路見枉。酒間君談?(君談?)もと(與師論)に作るも消去の点を墨で打ち(間)下と(幕)上から墨で線を引いて右横に墨で補う)幕吏某翁出處。 ■論(■論)もと(并)に作るも消去の点を墨で打ち(處)下と(明)上から墨で線を引いて右横に墨で補う)明季呂晚村順?(順?)もと(■)に作るも消去の点を墨で打ち、(村)下と(逆)上から墨で線を引いて右横に墨で補う)逆、賦此紀之 『東游詩稿』8(長府博物館所蔵)	
347	※芙蓉牆(洋峨亭十咏一)					七絶																												芙蓉牆(洋峨亭十咏一)(※(洋峨亭)三文字が(芙蓉牆)(十咏一)より小さい) 山口県立山口博物館所蔵「草稿」1(DSC9012 整理番号212-137) 芙蓉牆(洋峨亭十咏一) 大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品14(原稿用紙、ペン書きDSC08984)
348	※九月十三日夜洋峨亭即事					七絶																												九月十三日夜洋峨亭即事 山口県立山口博物館所蔵「草稿」2 (DSC9012 整理番号212-137)
349	※掘沙水所蔵峨眉石(石有洞似半月)/※掘沙水所蔵峨眉石(石有洞似半月)					七絶																												掘沙水所蔵峨眉石(石有洞似半月) 山口県立山口博物館所蔵「草稿」3(DSC9012 整
350	※奉留別					七絶																												掘沙水所蔵峨眉石(石有洞似半月)(※桑原昌資氏蔵奉留別別蔡華和上(佐賀市善定寺所蔵)) 僧月性顕彰会所蔵品(複写)DSC08958/大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品13(原稿用紙、ペン書き
351	※諦法上人養病京于?西寺?見寄詩續次■礎却呈■有事不及即答亦不別答■莫罪緩慢則幸甚哉					七絶																												諦法上人養病京于?西寺?見寄詩續次■礎却呈■有事不及即答亦不別答■莫罪緩慢則幸甚哉 僧月性顕彰会所蔵 DSC08962
352	※呈不及和上					七律																												呈不及和上 大畠出張所所蔵品「肥前佐賀市善定寺改築之圖」 DSC08952/DSC08953
353	※讀書					五絶																												讀書 関重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下7(※校勘未
354	※筆					五絶																												筆 関重弘・藤田千歳『近世名家詩鈔』卷下8(※校勘未
355	※癸卯中元	天保14	癸卯	1843	27	七絶																												癸卯中元(※志熊家蔵書写) 大畠出張所僧月性顕彰会所蔵品5(原稿用紙、ペン書

No.	詩題	作詩年 (暫定)	干支	西暦	年令	『清狂遺稿』 全二冊			『清狂詩鈔』 全一冊		『清狂吟稿』二冊 (山口県萩市椿東一五三七 松陰神社蔵)								虎山醒窓二家批評『未定清狂吟稿』 卷之三 (月性記念館所蔵)				『天保古詩百一鈔草稿』 (月性記念館所蔵)												月性顕彰会所蔵品/『清狂吟稿近作抄出』(長府博物館所蔵)/扇面詩(長府博物館所蔵)/『東游詩稿』(長府博物館所蔵)/『入江九一文書39清狂吟稿』(山口文書館所蔵)/『吉田松陰・杉梅太郎加筆月性詩稿』(山口文書館所蔵)/山口県立山口博物館所蔵/題垂引、
											『清狂吟稿』 卷之一A		『清狂吟稿』 卷之二C		『清狂吟稿』 卷之二B		『清狂吟稿』D		『未定清狂吟稿』卷之三		『未定小稿』		『天保十三年壬寅草稿』		『鄙稿』A		『鄙稿』B		『庚戌未定稿』		『鄙稿』C		『鄙稿』D		
						No.	葉数	pdf	通し 番号		通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数(tif番号)	通し 番号	WORDファイル 葉数 (tif番号)	通し 番号		通し 番号		通し 番号		通し 番		通し 番号		通し 番		通し 番号				
356	※(辞世)																																		(辞世) (※覺成寺藏書写) 大畠出張所僧月性顕彰会 所蔵品5(原稿用紙、ペン書 き)DSC08982/DSC08983/ 月性展示館所蔵卷子
	※																																		
	※																																		
	※																																		
	※																																		
	※																																		
	※																																		